



ポーランドとリヨンの街並み



リヨンのオールドタウンと橋

はじめに

留学生活も残すところあと3ヶ月を切り、今学期も折り返し地点を過ぎました。学校では中間発表が近づき、新しいパートナーシップ・プロジェクトのプレゼンテーションも控えるなど、非常に慌ただしい日々が続いています。プロジェクトの合間には休暇もあり、学業への集中と、残り少ないヨーロッパでの思い出作り。その両方で心が満たされた、密度の濃い1ヶ月を振り返ります。

Presentation for MSA

前期のプロジェクトが幕を閉じたのも束の間、今学期は新たな企業パートナーシップが始動しました。今回のお相手は、フランスのキッチンパーツなどを手がける「MSA社」。テーマは「未来のキッチンデザインする」という、非常に興味深いものです。全3回のプレゼンテーションのうち、第1回目と第3回目はMSAの本社で開催されることになっており、4月3日に第1回目の発表を行ってきました。今回はリサーチ結果をまとめ、今後の方向性をすり合わせる内容でしたが、企業の方々から非常にポジティブな評価をいただくことができました。発表後には本社内の見学もさせていただき、企業の理念や技術に直接触れることで、今後の制作に向けた大きな刺激を受ける一日となりました。



MSAの本社の工場

新しい挑戦

前回の報告書で掲げた「もっと自分の意見を主張し、自分で自分の背中を押す」という目標。その達成に向けた一歩として、今期はあるクラスでリーダーを引き受けることにしました。当初は「自分には荷が重すぎる」とブレーキをかけていたのですが、ある友人の言葉が私の背中を押してくれました。

「挑戦してみないと、本当に向いていないかどうかさえ分からない。練習だと思ってやってみたら？ 難しい時は私たちがサポートするから」

この言葉に勇気をもらい、初めての挑戦を決めました。留学という大きな決断をしたはずな

のに、いつの間にか心の奥にしまい込んでいた「冒険心」や「ワクワク感」を、久しぶりに思い出した気がします。不安や緊張はありますが、それ以上に新しいことが始まる喜びに心が震える、豊かな経験となっています。



リーダーをしている授業のアップサイクルプロジェクトのプロトタイプ

イースター明けのホリデー

4月のイースター明けには、1週間弱の休暇がありました。この休みを利用して、友人と共にポーランドのワルシャワとクラクフを訪れました。

ヨーロッパでの旅行において、学生にとって大きなメリットとなるのが「学生割引」です。多くの美術館や施設で割引、あるいは無料で見学ができるため、留学を検討している方は、常に学生証を携帯することを強くお勧めします。

今回の旅の大きな目的は、アウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所を訪れることでした。より深く歴史を学ぶため、私たちは現地のガイドツアーを予約して見学しました。事前に心の準備は



Auschwitz-Birkenau の入り口

していたつもりでしたが、実際にその場に立つと、言葉では言い表せない感情が込み上げてきました。非常に重くセンシティブな場所ではありますが、人類が過去に犯した過ちを学び、直視することは、私にとって決して忘れることのできない貴重な経験となりました。

終わりに

慌ただしくも、自分の内面と深く向き合うことができた1ヶ月でした。残り少なくなってきた留學生活、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。次回の報告も、どうぞ楽しみにしててください。